

イチゴ就農、決意新た

J A研修所生 修了前に知事訪問

J A全農岐阜(全国農業協同組合連合会岐阜本部)が運営している「岐阜いちご新規就農者研修所」(岐阜市曾我屋)でイチゴの生産技術や農業経営を学ぶ15期



古田肇知事(中央)にイチゴを届けた研修生ら＝県庁

生3人が、今月末の修了を前に県庁に古田肇知事を訪ね、自らの手で育てたイチゴ「美濃娘」を贈った。

訪れたのは三浦隆志さん(43)＝岐阜市、林公大さん(44)＝同、古田由紀子さん(48)＝海津市。昨年4月から14カ月間の研修に取り組み、来月には就農する予定。

西村寿文県本部長から紹介を受けた3人は「清流の国で育った岐阜いちごをいっばい取れるように頑張る」「安定した量を収穫できる経営を目指す」などと抱負を語った。古田知事は「岐阜いちごの評価がさらに高まるよう、質にもこだわって頑張ってほしい」と励ました。

研修所は2007年度にJ A全農岐阜が設置。翌年度から研修生を受け入れており、今回の3人を含め計56人が県内で就農することになる。修了生たちの栽培面積は、県内のイチゴの栽培面積の約3割に当たる10畧に上る。

(古家政徳)